

第1回 加賀市都市計画マスタープラン及び
立地適正化計画策定委員会

議事録

1. 日時 令和4年6月1日(水) 10:00～11:40

2. 場所 加賀市役所別館 302 会議室

3. 出席者 委員 12名 (内代理 2名)

(委員長) 高山 純一

(委員) 馬場先 恵子 ※委員長代理

原田 陽子

宮崎 信子

眞田 茂樹

高辻 利光

唐谷 好二

山畑 恵子

綱 典子

竹内 憲一 (代理 田中進一郎課参事)

本田 芳宏 (代理 塩浦晃技術次長)

金子 直太

事務局 6名

加賀市 建設部 都市計画課

4. 次第

1) 開会

2) 副市長挨拶

3) 委員紹介

4) 説明

① 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の改定主旨

② 本市の概況

③ 策定体制とスケジュール

5) 議事

① 市民アンケート調査 (案)

6) 閉会

5. 傍聴者等 一般傍聴 なし

報道関係 2名

6. 議事内容

<深村副市長挨拶>

- ・加賀市は、他の地方都市と同様に人口減少を続けており、対策として子育て支援や健康寿命を延ばす取組を推進している。また、便利で快適な生活を送れるよう、スマートシティ化に向けた取組も進めており、デジタル田園健康特区にも認定されたが、方向性については現在市内でも検討しているところである。
- ・2024年には北陸新幹線加賀温泉駅の開業を控えており、建設資材の高騰などの課題もあるが、開業に向けて関係団体と連携して準備を進めている。
- ・また、ライズタウン構想実現に向けた取組や市内の企業進出の動きもあり、加賀市のコンパクト化・スマート化に向けて、活発なご意見を賜りたい。

<事務局>

- ・委員総数 12 名中、代理出席を含む 12 名が出席し、会議成立要件を満たしている。
- ・委員会設置要綱第 5 条第 3 項の規定による委員長代理について、委員長は馬場先委員を指名し、馬場先委員が受諾。

<高山委員長挨拶>

- ・新型コロナウイルス新規感染者数の下げ止まり傾向が続いており、ウィズコロナに向けた対応が求められている。
- ・加賀市では、人口減少対策や北陸新幹線加賀温泉駅の開業を踏まえ、まちづくりの視点からデジタル田園健康特区やスマートシティなどを積極的に進めており、これらの方向性が網羅できるように都市計画マスタープラン、立地適正化計画を改定したいという加賀市の意向を踏まえ、委員の方には議論いただきたい。

【説明】

1) 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の改定主旨

高山委員長：p6に記載のある「スマートシチズン」という言葉に馴染みがないため、もう少し詳しく説明してほしい。

事務局：市民との共創によるまちづくりを目指しており、先端技術に触れる場の提供やICT等人材育成を図るためにGIGAスクール等を活用するなど、市民と共に学びながら施策を進めていくことである。

高山委員長：p20に災害リスクの低減などの施策が記載されており、「マイ・タイムライン作成」は市民主体と想定されているが、行政のタイムラインも必要ではないか。

事務局：行政のタイムラインも必要と考えているが、他の自治体の例も少ないため、計画への位置付けなど、本委員会で今後検討したい。

原田委員：p5の加賀市スマートシティ宣言で目指す「人間中心の未来社会の実現」に違和感がある。自然環境などには配慮しないということなのか。

事務局：スマート施策を推進していく際に、行政目線や産業目線でなく、常に市民目線

に立って、暮らしやすい生活につながるよう進めていくことを目指している
ものであり、自然環境を軽視するものではない。

高山委員長：全国的にも様々な分野でスマート化が展開されており、加賀市スマートシティ
宣言では、人間の生活が便利になるようスマート化を進めるとの方向で理解し
ている。

馬場先委員：デジタル化の加速と激甚化する自然災害に対応するための改定と理解している
が、前回の立地適正化計画を策定した際も、防災についてはある程度議論して
いたと記憶している。今回は、都市再生特別措置法の改正に伴い、1,000年に1
回の降雨を想定した防災のあり方について議論を深めていく認識で良いか。

事務局：その通りである。国の方針に基づき、計画を改定したい。

眞田委員：新型コロナウイルスによる社会情勢の変化に伴い、人々の働き方や生活スタイル
が変化しつつある。また、身近にいる移住者に話を聞くと、まちの利便性よ
りもソーシャルグリーン（緑、景観など）といった視点を優先しているとの声
が多いため、このような視点も踏まえて今後議論できれば良い。

事務局：コロナ禍で密の回避が求められるようになったことから、緑や公園が注目され
ていることもあり、ソーシャルグリーンの視点も踏まえて検討したい。

2) 本市の概況

高山委員長：今回提示された現況のほか、市内への移住者数の推移についても把握できると
良い。

事務局：庁内でも確認し、次回の委員会で提示したい。

3) 策定体制とスケジュール

高辻委員：都市計画課が事務局として進めているが、スマートシティ課などの関係課にも
答弁できる体制にできないか。

事務局：本委員会の開催前には、関係課をメンバーとした庁内検討部会を開催し情報共
有しているが、議論の中心となり得る部署については委員会に配置するなど
も検討したい。

宮崎委員：地域別懇談会の対象となる参加者について教えてほしい。

事務局：前回改定の際は、主に区長・役員等を対象に懇談会を開催していた。まだ、具体
的な選出方法は決めていないが、人選等は各地域に依頼する予定である。

【議事】

1) 市民アンケート調査（案）

馬場先委員：回答者は設問にある「あなたの地区」を理解できるだろうか。依頼文などで補
足説明するなどの必要はないのか。

事務局：回答者が困らないよう、表現等を再度検討したい。

馬場先委員：配布数を3,000票としているが、集計上問題はないのか。

事務局：各地区で最低100票の回収を見込むことを想定した場合、前回アンケートの回
収実績から3,000票の配布は妥当であると考えている。

馬場先委員：市民から 3,000 人を抽出する際、年齢層は意識すべきだと思う。特に若い世代への回収率を高めるためにも、スマートフォンを活用した回答もできるようにしてほしい。

高山委員長：私が昨年度携わったアンケート調査では、CD媒体による郵送回答以外にインターネットでも回答できるよう複数回答形式で実施したこともある。回答者にとっては、Webでの回答を好む方もいると思われるため、紙媒体と併用した調査方法を検討してほしい。

唐谷委員：先日、商工会議所で Google フォームの QR コードを活用したアンケート調査を実施し、多くの回答が得られたので、今回の調査では回収率を 30% と見込んでいるが、更なる回収率向上を目指し Web を活用してほしい。

事務局：他部署では、スマートフォンを活用したアンケート調査を実施した例もあり、前向きに検討したい。

田中代理：県でも平成 30 年に石川県都市計画マスタープランについて、防災力の向上の観点を踏まえて見直しており、加賀市の方向性は適正と考えている。また、新知事が能登地域におけるデジタル田園都市を政策に掲げていることもあり、加賀市も同じ方向性であると感じているため、他市町の参考になるようとりまとめてほしい。

高山委員長：これ以上ご意見が無いようなので、本日の議事を終了します。

7. 委員会の状況



以上